



分析がつなぐ人生の道

ジーエルサイエンス株式会社の齋藤凜太郎と申します。バトンをいただいた環境省（島津製作所から出向中）の渡邊淳さんとは、分析化学会関連の学会や展示会などを通じて知り合いました。また、共通の飲み会に参加する「飲み仲間」でもあります。前回の8月号で「町田会」という言葉が出ましたので少しご説明しますと、その名の通り定期的に町田で開催されている飲み会です。埼玉県の入間市から毎度駆けつけております。私や渡邊淳さん以外にも様々なメンバーが集まり、楽しく乾杯をしております。今回の執筆のバトンも、乾杯のついでに自分のコップに注がれておりました。この他にも分析を通してお知り合いになった方々と仲良くさせていただいております。今回のエッセイでは、私の人生と皆様をつなげてくれた「分析」とのかかわりを振り返ってみたいと思います。

分析を始めたきっかけは学生時代に遡ります。出席番号の前後の友人がのちに所属する分析化学系の研究室を希望しており、なんとなく一緒になって所属したのが始まりです。当時は分析そのものというより、高純度Ge半導体検出器などをメインに使用し、放射性セシウムを含む焼却飛灰の不溶化処理を研究しておりました。

分析化学会へは、大学院1年目だった2021年5月に入会しました。ちょうどコロナ禍であったため、初めて参加した第81回分析化学討論会はオンライン開催でした。その時は学会で知り合いなんてできるわけありませんでしたが、対面で開催できる今を嬉しく思います。

当社に入社した経緯にも「分析」が深くかかわっております。研究室の行事の一環として、最新機器を勉強する目的でJASISに参加しておりました。展示会後の飲み会も恒例で、「飲み会を行うまでがJASIS」です。当時、自宅までの帰路が遠いためホテルに宿泊したのですが、そこへ向かう途中、同じくJASISに参加していた団体を見かけ、気分が良くなっていた自分はつい声をかけました。なんとホテルも同じだったその方々は、当社の社長と当時の営業本部長でした。そこで名刺交換をしたことをきっかけに、翌日ブース案内をしていただきました。名刺を作ってくくださった恩師には大変感謝しております。後日、就職活動でエントリーした際には「本当に来たのか」と社内でも驚かれたという裏話もありました。

現在はカスタマーサポートセンターのアプリケーション

ンデザインという部署に勤務し、前処理（固相抽出法や酸分解）に関するお問い合わせ対応とアプリケーション作成を行っています。分析装置は学生時代から変わりましたが、ICP-MSと共に分析業務を継続しております。

入社以来、一番苦労したのがコンタミネーション対策です。容器洗浄、材質の選定、実験室整備など、様々な方にご指導いただきながら日々励んでおります。日々の技術向上のため、ちょっとした挑戦の積み重ねが大切だと考えております。装置のブランクを下げるために特製の簡易フードを自作してみるなど、手探りで進める中で、もちろん失敗もありますが改善につながるが多々ありました。独自のPDCAサイクルを言葉にするなら、「Passion（情熱）⇒ Design（計画）⇒ Challenge（挑戦）⇒ Apologize（謝罪）」といったところでしょうか。サイクルにはなってないですね（笑）。

実は挑戦のひとつとして、LINEスタンプの作製も行ってみました（図1）。社内で2名が購入してくださったのですが、独自の分析の結果、一方は「自主的」、もう一方は「手がすべての誤購入」だったことが判明しています。分析においてミスはないに越したことはありませんが、こういうミスなら大歓迎です。皆様もスタンプ購入というチャレンジをして、華麗に失敗してみてもいいです。ご興味があればお声がけください。



図1 自主作製した Line スタンプ

まとまりのない文章でしたが、結論として言いたいのは、分析にかかわってきたおかげで今の自分があり、こうしてバトンを託していただいたのだと、しみじみ感じているということです。

さて、次のバトンは、研究室の7年先輩にあたる株式会社リガクの松田渉さんをお願いさせていただきました。学生期間の被りはないのですが大変お世話になった先輩であり、先述した私の入社経緯にも深くかかわっている方です。それでは皆様、最後までお読みいただきありがとうございます。次回もどうぞお楽しみに！

〔ジーエルサイエンス株式会社 齋藤 凜太郎〕